

ワコーゴルフ倶楽部ゴルフショートコース敷地拡張、施設拡充事業に伴う

# 団子塚遺跡確認調査の記録



1 9 9 9

静岡県磐田郡浅羽町教育委員会

ワコーゴルフ倶楽部ゴルフショートコース敷地拡張、施設拡充事業に伴う

# 団子塚遺跡確認調査の記録

1 9 9 9

静岡県磐田郡浅羽町教育委員会

## 例言

1. ワコーゴルフ倶楽部のゴルフショートコース敷地拡張・施設拡充事業に伴って実施した団子塚遺跡（平成8年4月17日～平成8年7月17日 面積1,800㎡）確認調査の記録である。
2. 調査は、和光商事株式会社を委託者、浅羽町を受託者として静岡県教育委員会文化課の指導のもと、浅羽町教育委員会が実施した。
3. 調査に関する資料及び、出土遺物は浅羽町教育委員会で保管している。
4. 調査体制は下記のとおり。  
調査主体者 磐田郡浅羽町教育委員会 教育長 岡本幸夫（現地調査 平成8年度）  
廣岡秀雄（整理報告 平成10年度）  
調査担当者 浅羽町教育委員会社会教育課 嘱託員 木曾昌司  
事務局 浅羽町教育委員会社会教育課  
作業員 大石勝 大隅好雄 加藤みよ 鈴木仁美 武田光子 増田芳子 戸塚寛  
ワコーゴルフ倶楽部職員の皆さん
5. 基準杭設置と出土遺物の実測は株式会社フジヤマに業務委託した。
6. 本書の執筆・編集は、木曾が行った。

# 本文目次

|       |                |    |
|-------|----------------|----|
| 第 1 章 | 調査の方法と経過       | 1  |
|       | 第 1 節 調査に至る経過  | 1  |
|       | 第 2 節 調査の方法と経過 | 1  |
|       | 第 3 節 全面的な遺跡保存 | 5  |
| 第 2 章 | 調査の成果          | 7  |
|       | 第 1 節 位置と環境    | 7  |
|       | 第 2 節 遺構       | 9  |
|       | 第 3 節 遺物       | 17 |
| 第 3 章 | まとめにかえて        | 17 |

# 第 1 章 調査の方法と経過

## 第 1 節 調査に至る経過

和光商事株式会社より、浅羽町諸井に所在するワコーゴルフ倶楽部内のゴルフコース増設（3コース分）、クラブハウスの新設が計画され、これに基づき平成8年2月5日付で町土地利用の事前協議書が提出された。当地は、団子塚遺跡・古墳群の範囲に入っており、住居跡や古墳が密集する場所であることから、それらが確認された場合、コース増設予定地（3コース分）、クラブハウスの新設予定地の移動や工法の検討、場合によっては、本調査の事前のデータが必要となるため、平成8年4月15日～7月17日まで確認調査を実施した。

## 第 2 節 調査の方法と経過

対象地を便宜上A・B・C・D・Eの5箇所に区分けして調査をおこなった（第1図参照）。調査地点は茶園や雑木林であったので、茶樹や雑木を伐採したのち、トレンチを設定、重機で表土を除去し人力で遺構面を掘削した。記録については、写真が35mm小型カメラ（カラー、スライド）、6×7中型カメラ（カラー、モノクロ）でおこない、実測図は状況に応じて縮尺1/100、1/40、1/20、1/10でおこなった。

A地点 クラブハウス新設予定地（第1図参照）。ここには東西方向に3本のトレンチ（幅2m×



写真1 A地点 伐採作業



写真2 A地点 掘削作業



写真3 A地点 作業風景



写真4 A地点 改植を受けている様子



第1図 団子塚遺跡トレンチ位置図



写真5 B地点 作業風景



写真6 B地点 埋め戻しの様子



写真7 C地点



写真8 D地点

長さ約 40 m) を設定した。調査の結果、茶畑の改植（天地返し）で破壊を受けていたことが判明した。（写真1・2・3・4参照）＜約 240 m<sup>2</sup>＞

**B 地点** ゴルフコース増設予定地。まず予定地内北側の古墳に、幅 1 m×長さ数mのトレンチを 5 本設定。続いてすぐ南側に 2 本の試掘溝（幅 2 m×長さ約 30 m）を設定したところ、竪穴住居跡の一部や柱穴が確認できたため全体状況を把握する必要があるので全面の表土を除去した。

この段階で今後の遺構の取り扱いについて協議を行い、設計変更をして全面保存することで合意した。保存に向けて、どのような遺構が存在するのかを確認するために遺構の一部を掘り込み、その形状と深さの観察にとどめ、図面と写真で記録した。最後に、およそ 30 cm 程の厚さで全体を埋め戻して開放した（写真5・6参照）。＜約 1,400 m<sup>2</sup>＞

**C 地点** ゴルフコース増設予定地。2 本のトレンチ（幅 2 m×長さ約 7 m）を設定した。結果、茶園の改植を受けて遺構が残っていないことが判明した（写真7参照）。＜約 28 m<sup>2</sup>＞

**D 地点** ゴルフコース増設予定地。2 本のトレンチ（幅 2 m×長さ約 6 m）を設定した。結果、茶園改植を受けて遺構が残っていないことが判明した（写真8参照）。＜約 12 m<sup>2</sup>＞

**E 地点** ゴルフコース増設予定地。2 本の試掘溝（幅 2 m×長さ約 30 m×2 本）を設定した。遺物、遺構とも確認できなかった。＜約 120 m<sup>2</sup>＞

調査総面積…約 1,800m<sup>2</sup>

### 第 3 節 全面的な遺跡保存

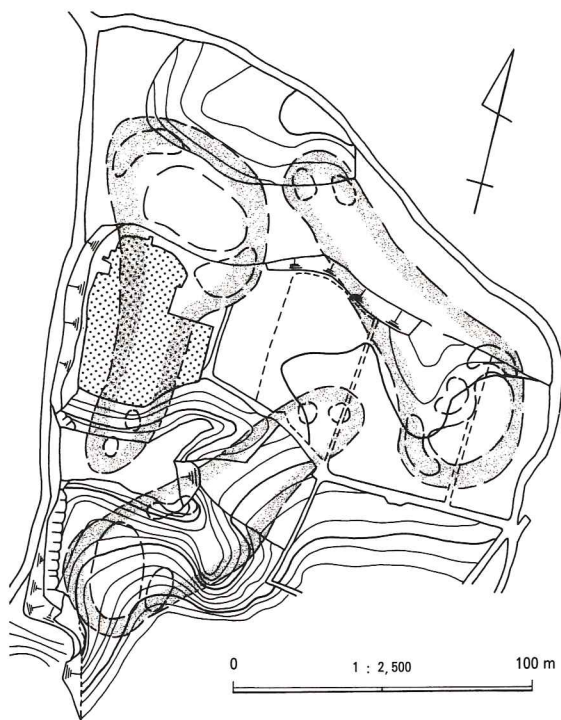
確認調査の結果A・C・D・E地点では明確な遺構は確認できなかった。しかし、ゴルフコース増設予定地のB地点で、竪穴住居跡や古墳などの遺構が良好な状態で残っていた。そのため再度、ワコーゴルフ倶楽部側と協議を行い、ゴルフコース造成時の工法を変更していただいた。当初の計画では切土を行い全体のレベルを現状より下げるものであったが設計変更をし、遺構の上に最低30 cmの盛土を行い（写真9・10参照）、コースの距離も短縮することとなった（第2・3図参照）。このような工夫によって、遺構を削平することなく完全に保存できることになった。



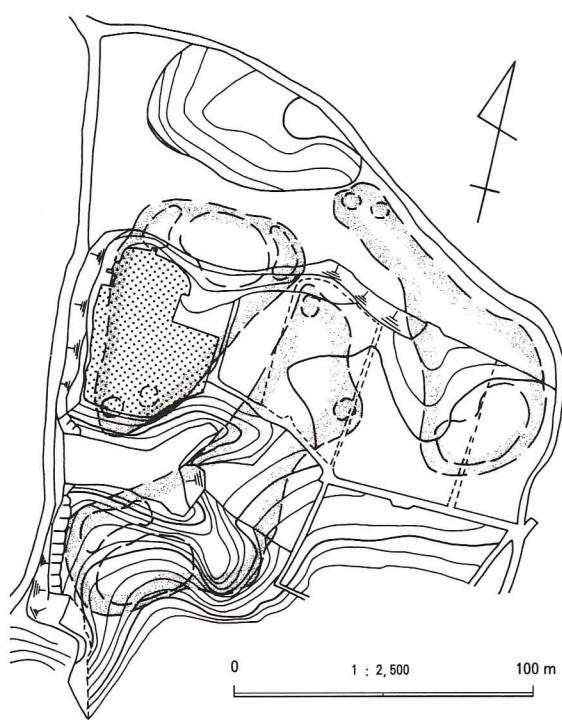
写真9 B地点 埋め戻し作業中（盛土中）



写真10 B地点 埋め戻し作業後（盛土後）



第2図 B地点 当初のコース計画図



第3図 B地点 変更後のコース計画図

## 第2章 調査の成果

### 第1節 位置と環境

**位置と地理的環境（第4図参照）** 浅羽町は静岡県西部の中央寄りの海岸線に位置する。南は遠州灘に面し、東隣には小笠山丘陵が位置し、北隣と西隣は沖積平野が広がり、町の西端を太田川、原野谷川が流れている。

町の地形は、北部が小笠山丘陵、仮称諸井台地（註）、南部が沖積平野となり町域のほぼ8割を沖積平野が占める。今から約6,000年前、縄紋時代前期に縄紋海進と呼ばれる温暖化現象が生じ海面が上昇した。これによって北部の丘陵、台地を除いてほとんどが水没したと想定される。その後の海退で海面が下降したところへ、天竜川が吐き出した砂が波で押し戻されてできた砂堤（砂丘）と旧原野谷川、その他の中小河川（古浅羽川）により徐々に埋められていった。埋積が遅れた東南部では潟湖（ラグーン）が形成されたが、それも次第に埋まっていき、1707年の宝永の大地震で地盤が隆起し、水面が消滅したと考えられている。

団子塚遺跡は、町北部の北端、諸井字北山と袋井市の高尾字向山にまたがって所在している（現在、その殆どがワコーゴルフ倶楽部の敷地となっている）。地形的には、小笠山丘陵西南麓の諸井台地と飛地として残っている小笠山丘陵の一部に位置する。付近の平地との比高差は、およそ20mで北と西の平野を一望に見わたすことができる。

**歴史的環境（第4図参照）** 北部の台地上では、団子塚遺跡、北山遺跡の2箇所旧石器時代の石器が見つかった。

縄紋時代の遺跡は、現在、8箇所確認され、北部の台地上、旧原野谷川の自然堤防上、南部の砂堤上に分布している。このうち台地上の古新田遺跡、北山遺跡からは少量の土器の細片と石器が、旧原野谷川の自然堤防上の青木遺跡では土器が、砂堤上の松山遺跡、野島遺跡、八幡西遺跡、宮ノ腰遺跡、権現山遺跡で土器や石器が見つかった。いままでのところ、旧石器時代、縄紋時代ともに遺構は確認されていないが今後発見される可能性が高い。

弥生時代になると、北部の台地上、旧原野谷川の自然堤防上、南部の砂堤上で本格的に確認されるようになり、遺跡の数も2倍以上（約20箇所）に膨らむ。中期になると台地上の団子塚遺跡で大規模な周溝墓群が確認され、北原遺跡では小規模な集落が確認されている。

後期になると、北部では団子塚遺跡、北原遺跡、古新田遺跡という集落が確認され、旧原野谷川の自然堤防上では常楽寺遺跡から弥生時代の石鍬が採集されている。十二所遺跡では本格的な集落が営まれるようになる。高道遺跡では遺構が確認され、小林遺跡、常楽寺遺跡などでもその頃の土器が採集されている。南部の砂堤上の権現山遺跡では弥生時代中期の周溝墓、八幡西遺跡では土器が発見されている。後期の遺跡としては、松山遺跡から土器・石器が野島遺跡では、土器がそれぞれ採集されている。

これらの遺跡の分布と内容からいえることは、北部の台地上と旧原野谷川の自然堤防上の北半分に遺跡が集中して分布し、内容も大規模な周溝墓群と多くの集落が確認されていることである。これに対して、旧原野谷川の自然堤防上の南半分と南部の砂堤上では、分布も散漫で内容も断片的であることから、まだこの時期は、北半に生活の中心があったと考えられる。

古墳時代の遺跡は、北部の台地・丘陵上、旧原野谷川の自然堤防上、南部の砂堤、新たに西部の旧原野谷川の自然堤防上、現在の太田川の二瀬西橋付近にも遺跡が確認されるようになる。この時代の

遺跡の総数は、さらに2倍に増え約40箇所にのぼる。

前期には旧原野谷川の自然堤防上の北側に位置する十二所遺跡で引き続き集落が営まれ、同じ自然堤防上の南側に位置する新堀遺跡や青木遺跡で大規模な集落が出現する。現在の太田川の二瀬西橋付近、西向遺跡から集落が発見されているが、この遺跡は海拔1 m以下で見つかっている。ちょうどこの時期、海面が下降するため、それにともなって居住できる場所が広がった結果と考えられる。

中期になると、海面の上昇がおこり、丘陵の先端まで海水が入り込むようになる。その頃、それに対応して、自然堤防上の新堀遺跡や青木遺跡で明確な遺構が見られなくなる。台地上では、古新田遺跡から豪族居館が発見され、周辺の高道遺跡でも同時期の遺構が確認されていることから、古新田遺跡を中心とした大規模な集落の存在が想像されている。丘陵上に、観音山古墳群、五ヶ山A-1号墳、銅芯金貼りの耳環が出土した五ヶ山B-1号墳、遠江最大の方墳の五ヶ山B-2号墳(34m×29m)、が分布している。南部の砂堤上では地蔵山古墳(径40mの円墳)が確認されている。

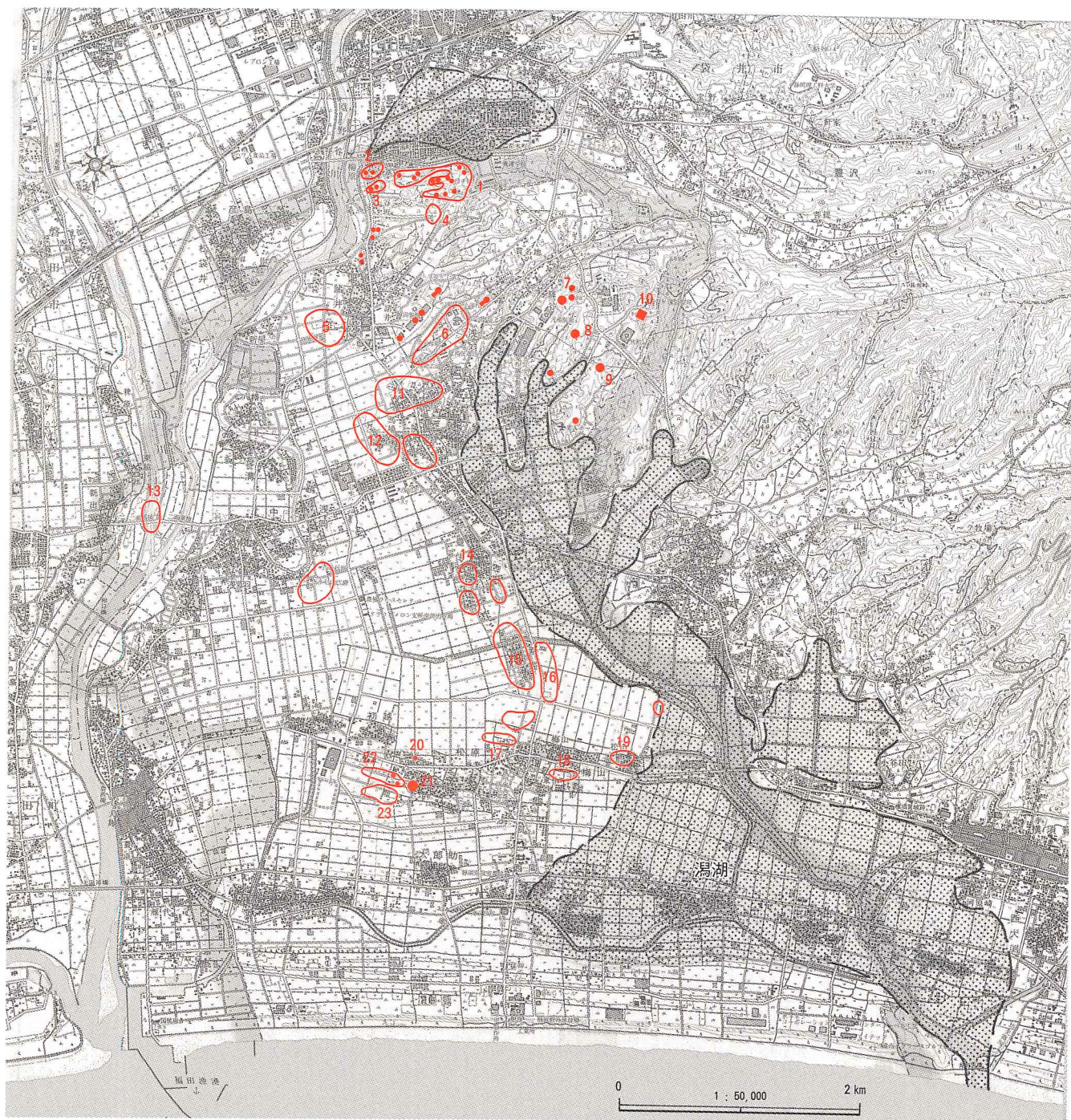
後期、生活と直接結びつく住居などの集落は、今までのところ、青木遺跡など少数しか見つからない。古墳については、北部の台地・丘陵上に100基以上は所在し(谷坂古墳群、北山古墳群、団子塚古墳群など)、南部の砂堤上にも数基所在(地蔵山古墳群、法音庵古墳)している。特に、今回調査の団子塚遺跡は、町内で最も古墳が密集している場所で40基以上の群で存在しており、今までに木棺直葬、横穴式石室、横穴式木芯粘土室を埋葬施設に持つ古墳が発掘調査されている。

註)

加藤芳朗氏の平成9年1月25日実施 町史講演会「浅羽町の山野とその生い立ち」の講演レジュメによる。

#### 参 考 文 献

1. 『団子塚遺跡(I)』浅羽町教育委員会 1992年
2. 『五ヶ山B-1号墳』浅羽町教育委員会 1993年
3. 『浅羽町史一資料編1-考古・古代・中世編』浅羽町 1997年



第 4 図 浅羽町の主要遺跡

- |              |              |             |             |
|--------------|--------------|-------------|-------------|
| 1. 団子塚遺跡・古墳群 | 2. 谷坂遺跡・古墳群  | 3. 北山遺跡・古墳群 | 4. 北原遺跡     |
| 5. 十二所遺跡     | 6. 古新田遺跡     | 7. 観音山古墳群   | 8. 五ヶ山A-1号墳 |
| 9. 五ヶ山B-1号墳  | 10. 五ヶ山B-2号墳 | 11. 高道遺跡    | 12. 小林遺跡    |
| 13. 西向遺跡     | 14. 常楽寺遺跡    | 15. 新堀遺跡    | 16. 青木遺跡    |
| 17. 八幡西遺跡    | 18. 野島遺跡     | 19. 松山遺跡    | 20. 法音庵古墳   |
| 21. 地藏山古墳    | 22. 宮ノ腰遺跡    | 23. 権現山遺跡   |             |

## 第 2 節 遺 構

調査の結果、B 地点だけに遺構が残存していた。その他の A・C・D・E 地点では明確な遺構は、確認できなかった。前回の 1 次調査の時に D'' 地点としているため、以下それにしたい。さらに今回の調査の目的は、遺構のおおまかな性格を確認し、全面的に埋め戻して現状保存することなので、殆ど掘込んでいない。もし今後、本格的に発掘をした場合、遺構の性格と規模が若干、変わる可能性がある。D'' 地点の基本的な層序と地形、そして現況での遺構の平面形と一部掘込んで得られたデータのなかで、主な遺構の概要を説明していきたい。

### D'' 地点

基本的層序は、表土（耕作土）が 20～30cm 程の深さで、次が直ぐ地山で黄褐色粘質土である。包含層は確認できなかった。

地形的には、小規模だが台地状になっており、ほぼ平坦である。

前回の 1 次調査で西隣の D 地点の発掘調査が行われた時に、掘立柱建物跡 19 棟、竪穴住居跡 12 軒などがすでに発見されていたため、今回も同じような遺構を想定して確認調査をおこなったところ、竪穴住居跡と考えられる遺構が、およそ 12 軒、溝状遺構は 10 条以上、土坑 10 基以上、土坑墓 2 基、古墳 2 基、小穴 50 個以上が見つかった。遺構の残り具合は良好であった。

### 主な遺構の概要（第 5 図・写真 11・12 参照）

竪穴住居跡と考えられる遺構が、およそ 12 軒見つかった。D 地点の住居群の続きである。全般的に見られるため東側にも広がっているものと推定される。平面形は胴張り隅丸長方形、不整形、胴張り隅丸正方形、隅丸正方形の各種がありそうである。

5 号竪穴住居跡にサブトレンチを入れてみたところ、壁溝の幅が 20～30 cm、床面からの深さが 6～8 cm であった。埋土は、にぶい黄褐色粘質土の単一層だったため、短期間に埋まったものか、もしくは埋められたと思われる（第 6 図参照）。

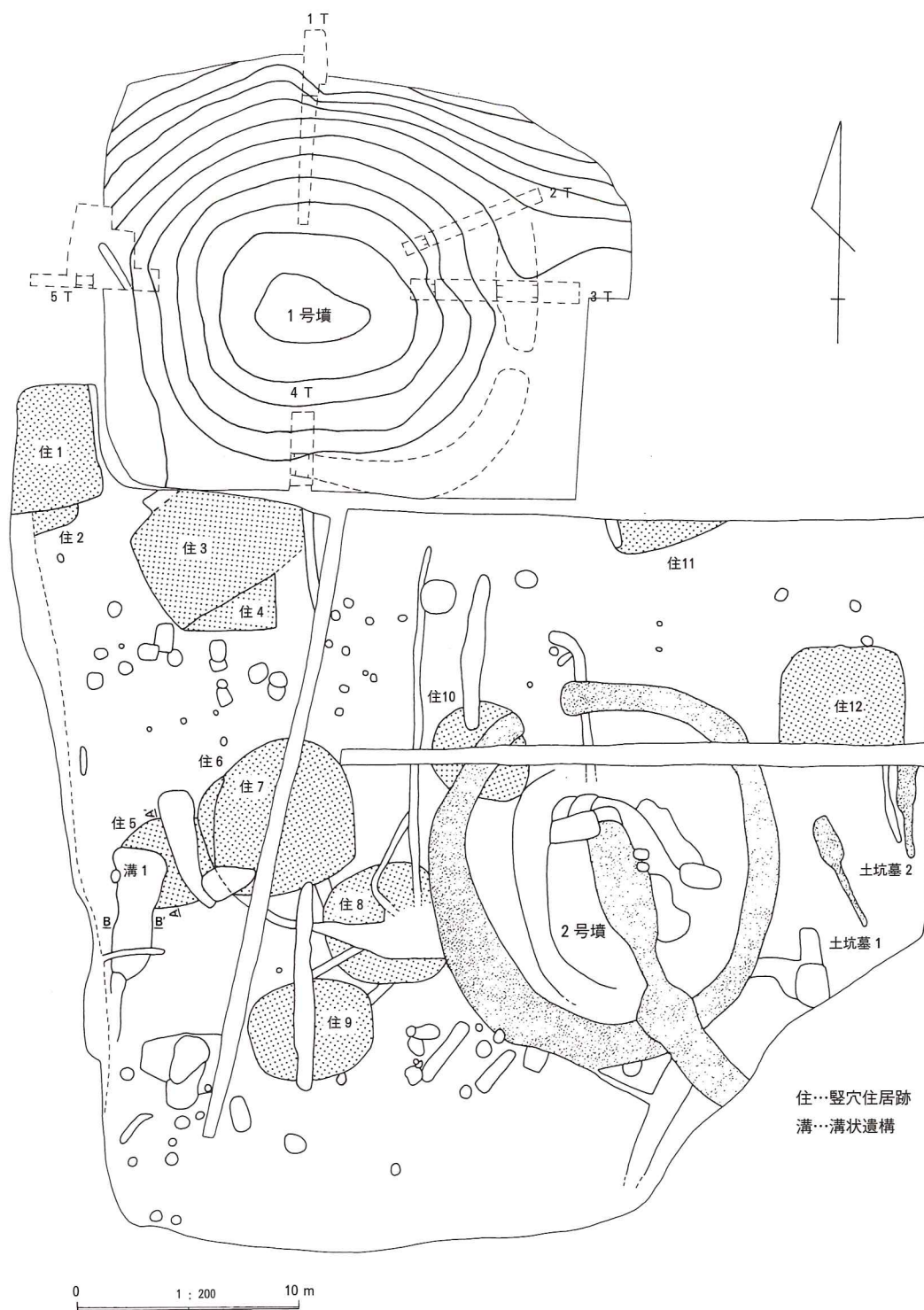
さらに 1 号墳の 3 トレンチからも竪穴住居跡の壁溝の一部が見つかった。竪穴住居が廃絶したあと墓地として古墳が造られている（第 5・8 図参照）。

小穴は 50 個以上見つかった。掘立柱建物跡と考えられる柱穴が複数見つかったため数棟が建っていたと思われる。

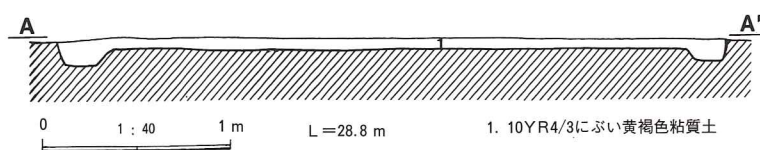
溝状遺構は 10 条以上見つかった。そのなかの溝状遺構 1 にサブトレンチを入れた。幅は約 1.8 m、底幅が約 1.3 m、深さが約 20 cm である。埋土は、上層が黒褐色土で、下層が灰黄褐色粘質土である。埋土中から弥生土器の細片が出土した。溝状遺構の中には竪穴住居跡の排水溝と思われるものもある。

土坑は 10 基以上見つかった。隅丸長方形、楕円形、不定形などの平面形をしている。

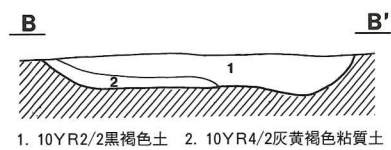
土坑墓は、調査区の東隅で 2 基見付き、横穴式石室状の平面形をしている。土坑墓 1 は、南にやや傾斜している場所から見つかった（第 10 図参照）。サブトレンチを入れたところ、断面で木棺の痕跡（暗褐色粘質土）と裏込土（黄褐色粘質土）が確認できた。土坑墓 2 としている遺構は、土坑の北半分が観察用の畔にかかっているが、土坑墓 1 と同じ性格の遺構であろう。



第5図 D'' 地点 遺構配置図



第6図 5号竪穴住居跡断面図



第7図 溝状遺構1断面図



写真11 調査区西側遺構群

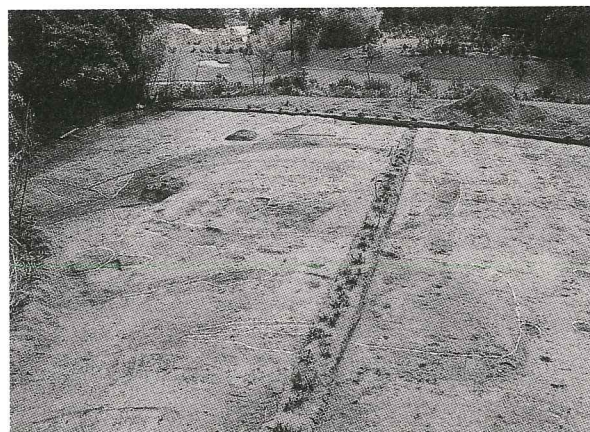


写真12 調査区東側遺構群

### 1号墳

台地の北側縁辺に位置する（第5・8図参照）。90度の角度で東西南北方向に十文字のトレンチと、45度の角度で北東方向にトレンチを設定した。墳形は円墳である。盛土の高さは約1.1m、規模は東西方向で17.75m、南北方向で15.5mである。

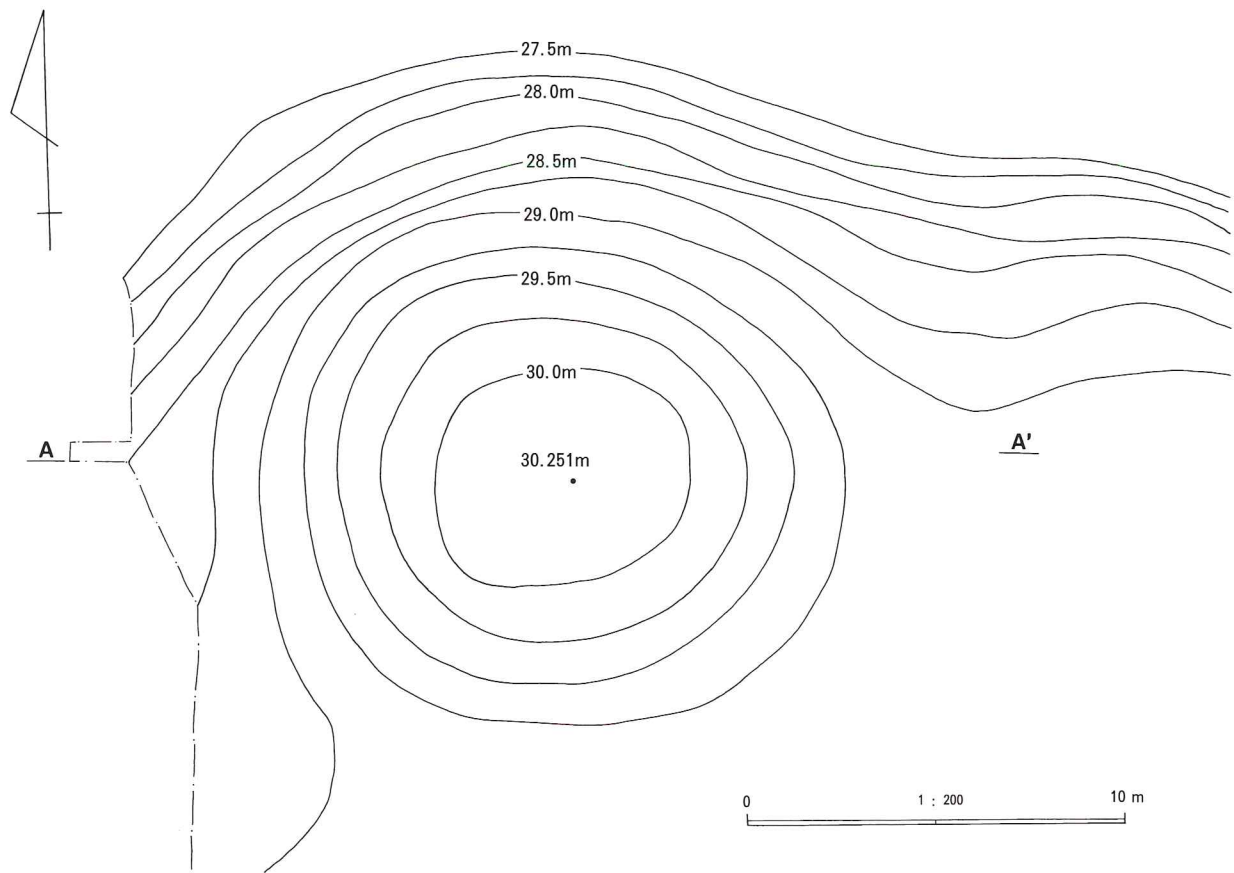
周溝の幅は1.1～1.8mで、北の斜面をのぞいた三方向に巡っている。墳丘の残りは良好だった。盛土の方法は、掘り方から内側では、基本的に黒褐色粘質土と灰黄褐色粘質土が密に水平に互層をなして積まれ、外側は比較的大きな単位で積まれている（第8図断面図・写真14参照）。

西トレンチ（5トレ）の墳裾部を2.5m×3.5mで拡張したところ、北西方向にのびる排水溝が見つかった（第9図・写真15参照）。確認出来た範囲で長さ2.4m、幅40cm、深さ20cmである。内部には、拳大の礫が充填され、さらに弥生土器片が混入していた。これは、古墳にともなう排水溝ではないかと考えられ、主体部は、主軸方向が東西に向き、西側に開口しているのであろう。

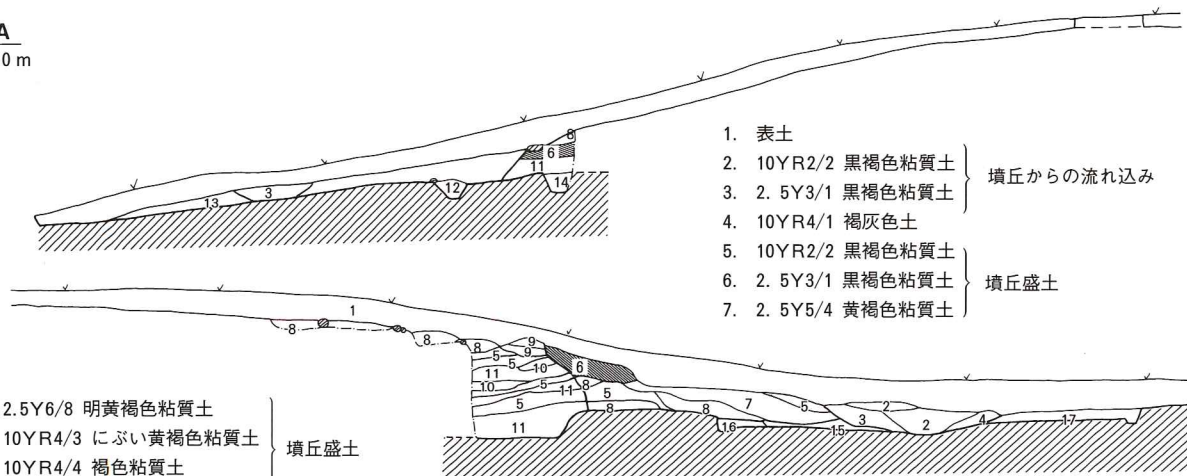
調査当初、墳頂部を鉄芯で突いてみたが、石室らしき石には全く当たらなかった。そのため木棺直葬墳と横穴式木室墳両方の可能性を考えた。次に墳丘を一部掘り下げたところ、地山を掘込んだ墓壙が確認でき、石室にともなう石が見られなかったこと、さらに上から攪乱された様子もないことから、横穴式木芯粘土室の古墳（横穴式木室墳）の可能性を考えている。出土遺物がないため、築造年代は不明であるが、おおよそ6世紀後半から7世紀代と思われる。



写真13 1号墳（北東から）



A  
30.0 m



A'  
30.0 m

- 8. 2.5Y6/8 明黄褐色粘質土
- 9. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土
- 10. 10YR4/4 褐色粘質土
- 11. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土
- 12. 10YR3/1 黒褐色土
- 13. 10YR6/8 明黄褐色粘質土
- 14. 10YR3/3 暗褐色土
- 15. 2. 5Y5/2 灰黄褐色粘質土 やや明るい
- 16. 2. 5Y5/2 灰黄褐色粘質土
- 17. 10YR5/2 灰黄褐色粘質土

墳丘盛土

豎穴住居跡

第 8 図 1号墳地形図・断面図

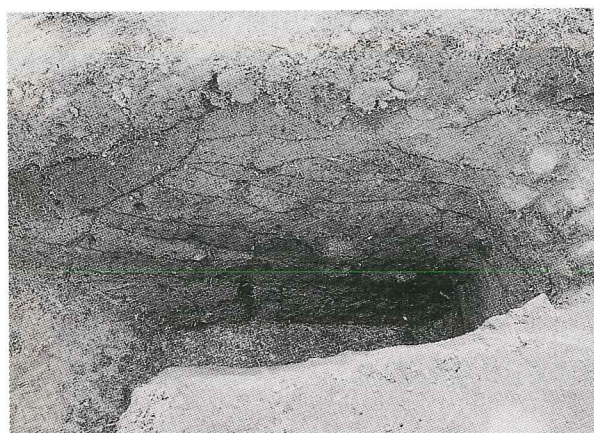
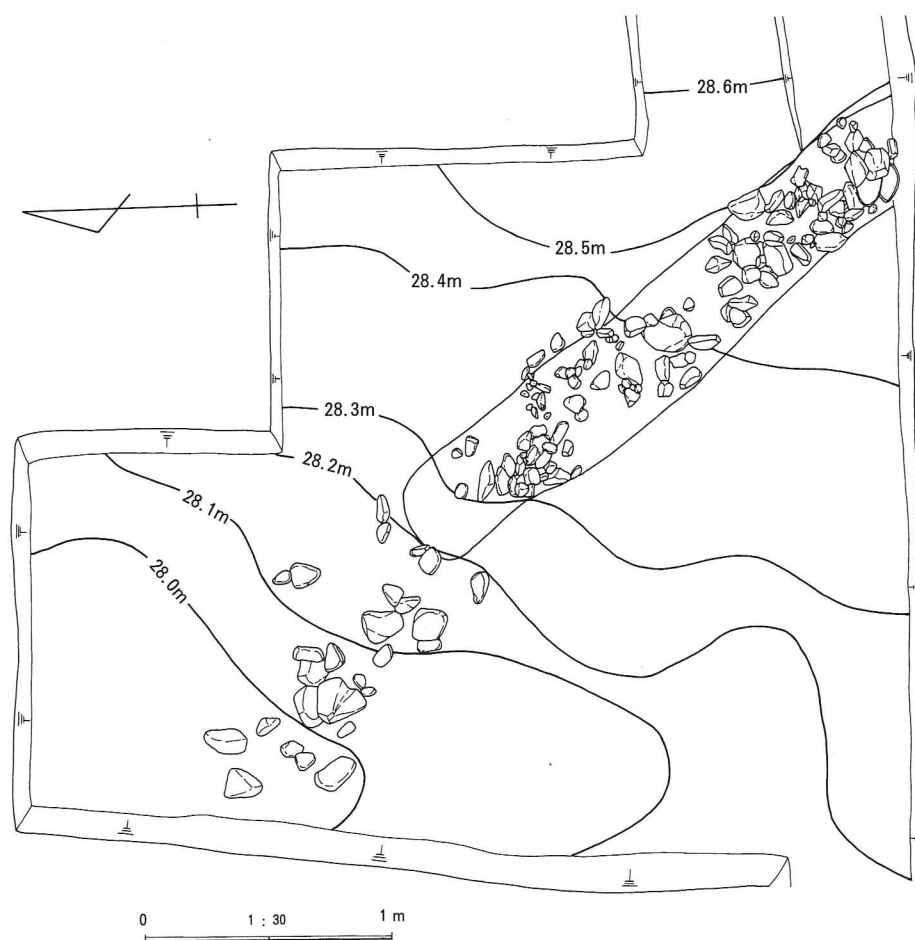


写真14 A-A' 断面



写真15 5トレンチ 排水溝



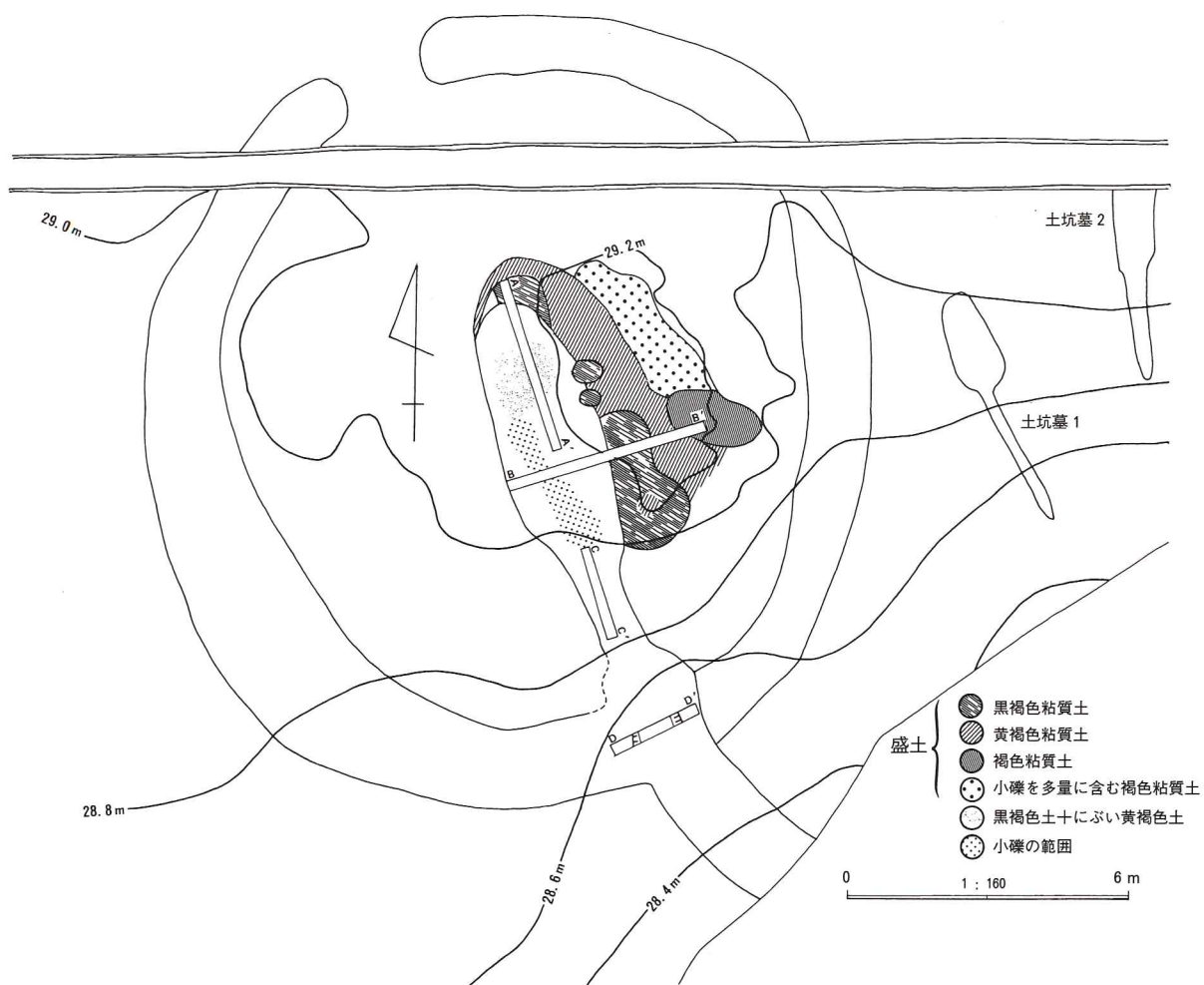
第9図 1号墳排水溝

## 2号墳

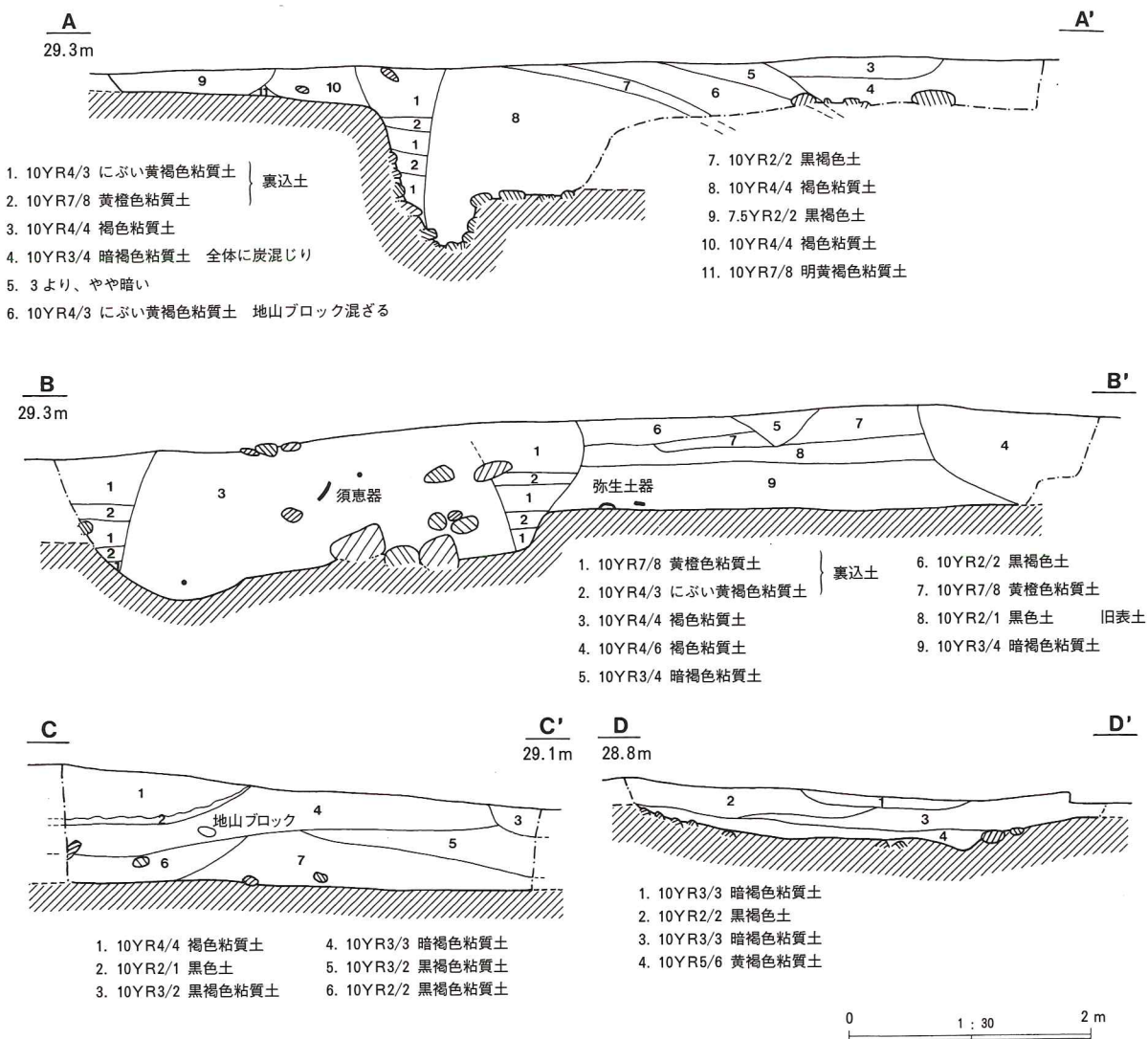
1号墳から東南方向へ約25m行ったところに位置する(第5図参照)。墳形は円墳で盛土は、一部を除いてほとんど残っていなかった。規模は東西方向で12.2m、南北方向で13.5mである。周溝の幅は0.9m～2.7mで北側の一部を除き、ほぼ全周している(第10図・写真16参照)。墓壇にサブトレンチを設定したところ、A-A'断面の墓壇の隅で柱穴、さらに床付近で礫床と考えられる小礫が確認できた(第11図・写真17参照)。B-B'断面で褐色粘質土が、主体部の内側に向かって傾斜し、



写真16 2号墳全景（北から）



第10図 2号墳平面図



第11図 2号墳墓墳、墓道、周溝断面図



写真17 A-A' 断面 礫床

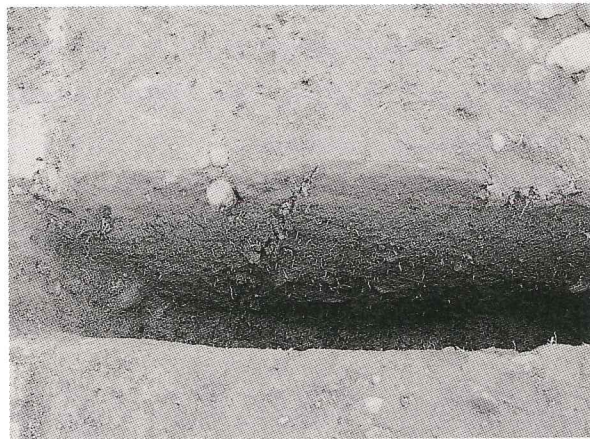


写真18 B-B' 断面 玄室内

裏込土と考えられるにぶい黄褐色粘質土と黄橙色粘質土が水平に互層に積まれ逆三角形状をしていた(第11図・写真18参照)。このことから、合掌形の横穴式木芯粘土室の古墳(横穴式木室墳)と考えている。さらに盛土については、黒色土は旧表土と考えられ、約15cmほど残存していた(第11図参照)。遺物は、須恵器の甕片が出土した。築造年代は、おおよそ6世紀後半から7世紀代と推定される。

### 第 3 節 遺 物

確認調査のため遺物は少なく数点で、全て土器である。

#### 弥生時代の土器

1～2は、8号住居から出土した。出土状態は、住居の床に伏せて二つ並んで置かれていた。

1は菊川式の台付甕で、胴部下位から欠損している。口縁部は緩やかに外反し、口唇部に刻目が施される。外面の調整は、口縁部から胴部上位にかけてナデられ、それより下の調整は不明。内面は、口縁部では横ナデ、胴部で横ハケ。口径は17.3cm、胴部最大径で17.4cm。弥生時代後期のものと推定される。

2も菊川式の台付甕で、胴部下位から欠損している。口縁部は緩やかに外反し、口唇部に刻目が施される。外面の調整は、口縁部から胴部にかけて縦ハケ、内面の調整は、口縁部で横ナデ、胴部ではナデが施されている。口径は17.9cm、胴部最大径が17.4cm。弥生時代後期のものと推定される。

3～4は、11号住居の埋土中から出土した。

3は壺の胴部から底部である。外面の調整は、縦ハケが施されている。内面の調整は、摩滅が著しく不明。底径6.75cm。

4は壺の胴部上半である。外面の調整は、縦ハケが施され、内面に指頭痕が見られる。

5は高坏の脚部破片である。裾部の段は控えめで、ゆるやかに外反し端部で内反している。脚部と坏部の境に、ヘラによる羽状刺突文が施されている。脚部下位に穿孔がある。2号墳の旧表土直下の層から出土した。墳丘の下で遺構に伴うものと思われる。弥生時代後期後半のものと推定される。

#### 古墳時代の土器

6は、須恵器甕の口縁部の破片で2号墳の玄室内から出土した。復元口径が13.6cm。

## 第 3 章 まとめにかえて

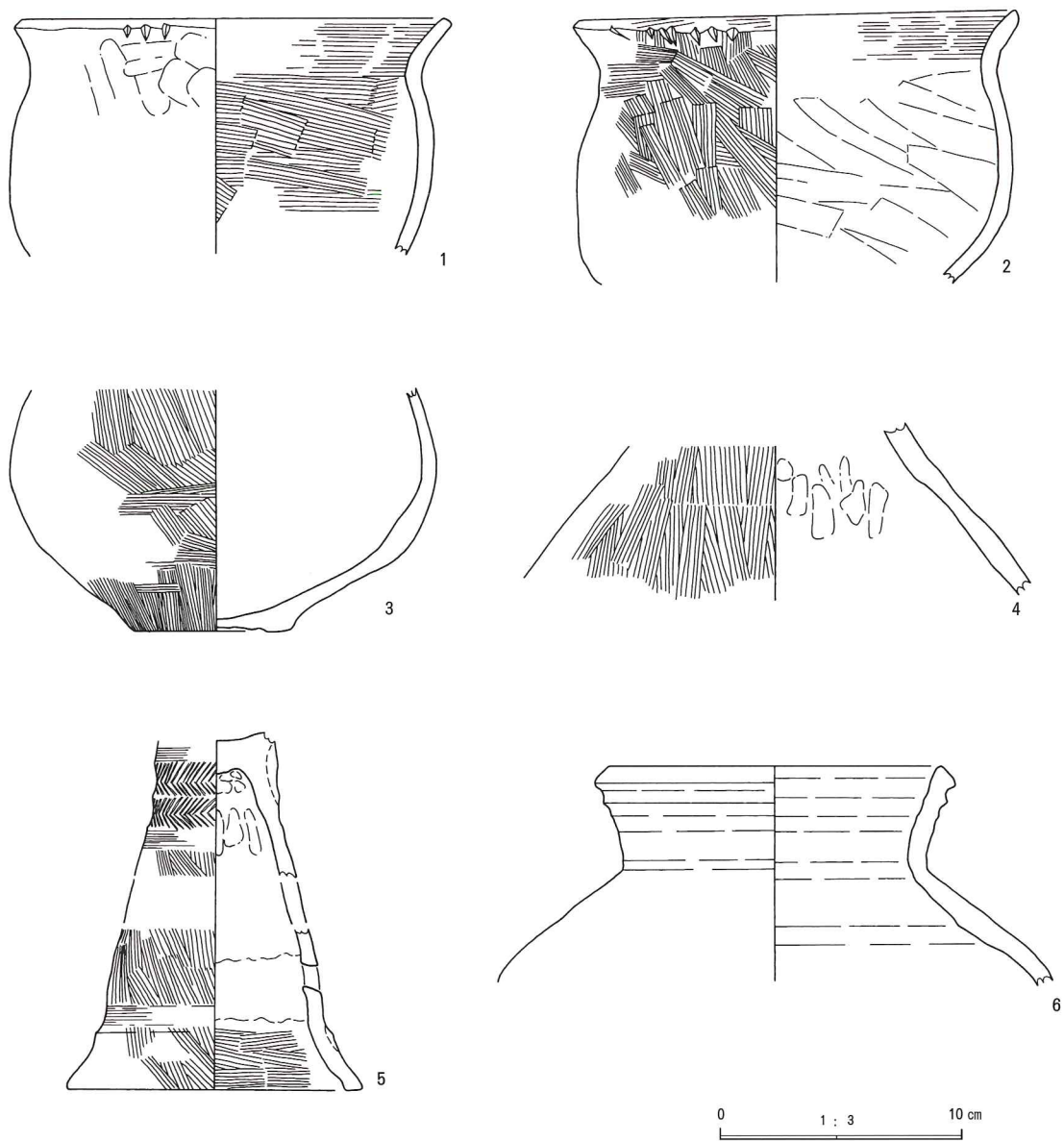
ここで、確認調査の成果を記してまとめにかえたいと思う。

前回のD地点で確認された竪穴住居などの遺構群がD"地点でも同様に確認することが出来た。それらが全般的に見られたことから、さらに東へ広がっていると思われる。また古墳時代後期の古墳が2基確認できた。両方とも横穴式木室墳と考えている。この古墳は、静岡県内では西部地方に限られており、特殊な古墳といえる。しかも完全な状態で保存されるため、今後も大切に伝えていきたい。

今回の調査の最大の成果は、遺跡を破壊することなく、保存することができたことである。当初の計画を大幅に変更していただいたワコーゴルフ倶楽部のご理解とご協力に感謝いたします。

#### 参 考 文 献

中嶋 郁夫 「いわゆる「菊川式」と「飯田式」の再検討」『転機』2 1988年



第12図 出土土器実測図



写真19 出土土器 1 (台付甕)



写真20 出土土器 2 (台付甕)



写真21 出土土器 3 (壺)



写真22 出土土器 4 (壺)



写真23 出土土器 5 (高坏)

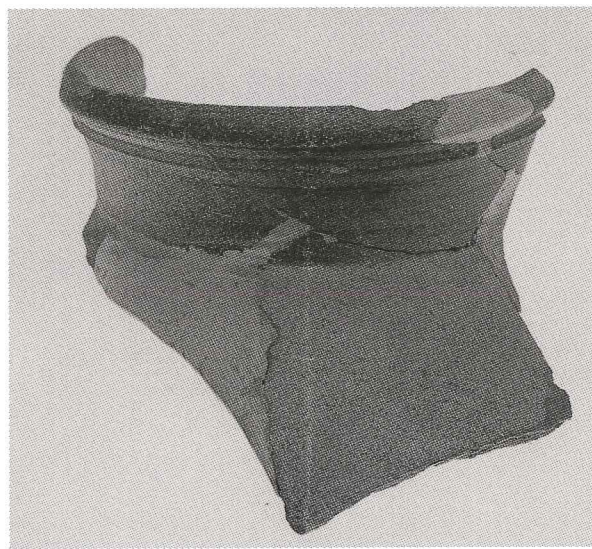


写真24 出土土器 6 (甕)

# 報 告 書 抄 録

|                                             |                                                               |        |       |                   |                    |                                                             |                      |                             |
|---------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|--------|-------|-------------------|--------------------|-------------------------------------------------------------|----------------------|-----------------------------|
| ふ り が な                                     | だんごづかい せきかくにんちょうさ      き ろ く                                  |        |       |                   |                    |                                                             |                      |                             |
| 書 名                                         | 団子塚遺跡確認調査の記録                                                  |        |       |                   |                    |                                                             |                      |                             |
| 編 著 者 名                                     | 木曾昌司                                                          |        |       |                   |                    |                                                             |                      |                             |
| 編 集 機 関                                     | 浅羽町教育委員会                                                      |        |       |                   |                    |                                                             |                      |                             |
| 所 在 地                                       | 〒437-1102 静岡県磐田郡浅羽町浅名1028 TEL (0538) 23-2424                  |        |       |                   |                    |                                                             |                      |                             |
| 発行年月日                                       | 西暦 1999年3月31日                                                 |        |       |                   |                    |                                                             |                      |                             |
| ふ り が な<br>所収遺跡名                            | ふ り が な<br>所 在 地                                              | コ ー ド  |       | 北緯                | 東 経                | 調査期間                                                        | 調査面積                 | 調査原因                        |
|                                             |                                                               | 市町村    | 遺跡番号  |                   |                    |                                                             |                      |                             |
| だんごづかい せき<br>団子塚遺跡<br>だんごづか こあんぐん<br>団子塚古墳群 | しずおかけんいわたぐん<br>静岡県磐田郡<br>あさばちょう<br>浅羽町<br>もろい あざきたやま<br>諸井字北山 | 22481  | 3     | 34度<br>47分<br>38秒 | 137度<br>55分<br>50秒 | 19960417<br>～<br>19960717                                   | 1,800 m <sup>2</sup> | ゴルフコー<br>ス敷地<br>拡張、施<br>設拡充 |
| 所収遺跡名                                       | 種 別                                                           | 主な時代   | 主な遺構  | 主な遺物              |                    | 特 記 事 項                                                     |                      |                             |
| 団子塚遺跡                                       | 集 落                                                           | 弥生時代後期 | 竪穴住居跡 | 弥生土器              |                    | 現地は、盛土されて完全に保<br>存されている。<br>2基の横穴式木室墳（推定）<br>も同様に盛土されて現状保存。 |                      |                             |
| 団子塚古墳群                                      | 古 墳                                                           | 古墳時代後期 | 古墳2基  | 須恵器               |                    |                                                             |                      |                             |

— 団子塚遺跡確認調査の記録 —

発行日 平成 11 年 3 月 31 日  
発 行 浅羽町教育委員会  
静岡県磐田郡浅羽町浅名 1028  
印 刷 (株) 山 田 印 刷 所  
磐 田 市 二 之 宮 251